

Title	郷土研究 徳島縣誌(笠井藍水著, 徳島縣郷土會發行)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.3 (1929. 11) ,p.181(503)- 181(503)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0182">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0182</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

郷土 德島縣誌 (笠井 藍水 著)  
德島縣郷土會發行

縣誌といふものゝ、實は著者笠井氏一人の努力に成つたもので、もとより一小冊子ではあるが、地文・遺物・遺蹟・歴史・土俗・名勝等の諸部門に涉つて、德島縣に關する郷土研究を遂げたものである。併してその主眼とするところは、郷土人士の興味であつて、研究考識に偏せず、また旅行案内的な通俗にも墮せず、頗る中庸を得た好著である。例へば遺跡遺物篇に於て、彌生式土器、アイヌ式土器等といふ術語を用ひた後に、別に是に對する註釋を附して術語を説明し、何等豫備知識を有せざる人々に便せるが如きは、近年全國の諸縣・郡に編纂せらるゝ縣誌・郡誌等の大冊が、やゝもすればその郷土民に郷土を知らしめる效果乏しく、時に徒らに塵埃の積るに任せらるゝに思ひ較べて、此の種の著述に亦重要な意義の存することを認めるものである。(有賀春雄)